

大人絵本にみられる感情心理の研究

佐藤 公代

(教育心理学教室)

(平成14年5月16日受理)

Study on Feelings Psychology in the Picture Books of Adult

Kimiyo SATOU

(問題と目的)

「コブタの気持ちもわかってよ」という大人絵本が登場した際、この絵本における、共感的、同情的、教訓的、絵と文がマッチしている、の4項目について調査したことがある。動物を主人公にして擬人化し、視点の取り方からの佐藤(1984)の結論「比較的容易な視点では4歳児が、困難な視点では5、6歳児が、登場人物の気持ちを再生作話している。ところが、気持ちの理解になると6歳児に視点の難易があらわれてくる。」にヒントを得て、今回は共感性、自己経験、興味との側面から考察する。自分をコブタにだぶらせることによって、いろいろな感情があらわれるであろう。人間のことなのに、なぜ動物を扱ったのか、動物の気持ちなどわかるのか、などと言う批判がある。以前、アメリカに短期留学したとき、「絵本の挿絵の役割に関する研究—しかけ絵本を通して—」の論文(英文)を心理学者(学部長の地位にあった人)に読んでもらったことがある。そこで、しかけ絵本を見せた時、人種差別の問題があるから、動物を扱ったのはよいことだとほめられたことがある。そんなことを思い出しながら今回も動物主人公の絵本を選んだ次第である。

すでに久保・無藤(1984)、角田(1992, 1994)は、感情心理学の中で、「感情読み取りテスト」「共感性テスト」を提示している。それらの知見を参考に、(イ)共感性の程度と絵本の読み取り方との関連性、(ロ)類似経験の有無と気持ちの読み取り方との関連性、(ハ)興味の有無と読み取り方との関連性について明かにすることを目的とする。

仮説は次の通りである。

- (1) 共感性の4類型と絵本の読み取り方には多面性、積極的な働きかけ、気持ちの理解しにくさ、想像しにくさがみられるであろう。
- (2) 類似経験者は、受容的、批判的な読み取り方をするであろう。
- (3) 絵本に興味を持つ者は、行動予測、働きかけ、読み取りの得点が高いであろう。

(方 法)

- 1) 調査期日：2001年10月2, 19日
- 2) 対象者：E 大学学生165名 (全回答数194名, 有効回答数85.05%)
- 3) 材料：絵本「コブタの気持ちもわかってよ」全20コマの縮小コピー (B4 サイズ)
- 4) 質問紙：イ, 感情読み取りテスト {久保・無藤 (1984) の質問紙を参考に高橋仁美氏作成, 筆者検討} 「絵本を読んでの気持ちを測る項目群」「コブタの気持ちの理解を測る項目群」「周囲の者の印象を測る項目群」ロ, 共感性テスト {角田 (1994) の ESSR を 5 件法で回答}
- 5) 結果の処理：「絵本を読んで感じ, 想像した内容の分類」「記述量の得点化」の一致率は共に86%である。

「共有不完全経験尺度 (SISE と略す)」は34点, 「共有経験尺度 (SSE と略す)」は40点を基準に操作的に高・低群とみなす。

「両向型」(自他の個別性の区別が認識できる)「共有型」(コブタの否定感情に対する同情が最も強い)「不全型」(自他の区別ができており, 他者との共有体験が低い)「両貧型」(自意識・他者意識の両方が低い)の4類型は, 「共有型」<「両貧型」<「両向型」<「不全型」の順に多くなっている。

(結果と考察)

有意差, 傾向差のあるところを掲載する。

Fig. 1 に共感性4類型でみた「コブタに対する働きかけの仕方」を示す。

Fig. 1 から, 「もし, コブタと話ができるとしたら何と言いますか。」に対する回答の仕方に1%水準で有意差 ($\chi^2=21.91$) がみられる。

Fig. 2 に類似経験の有無でみた「コブタ両親の予測」を示す。

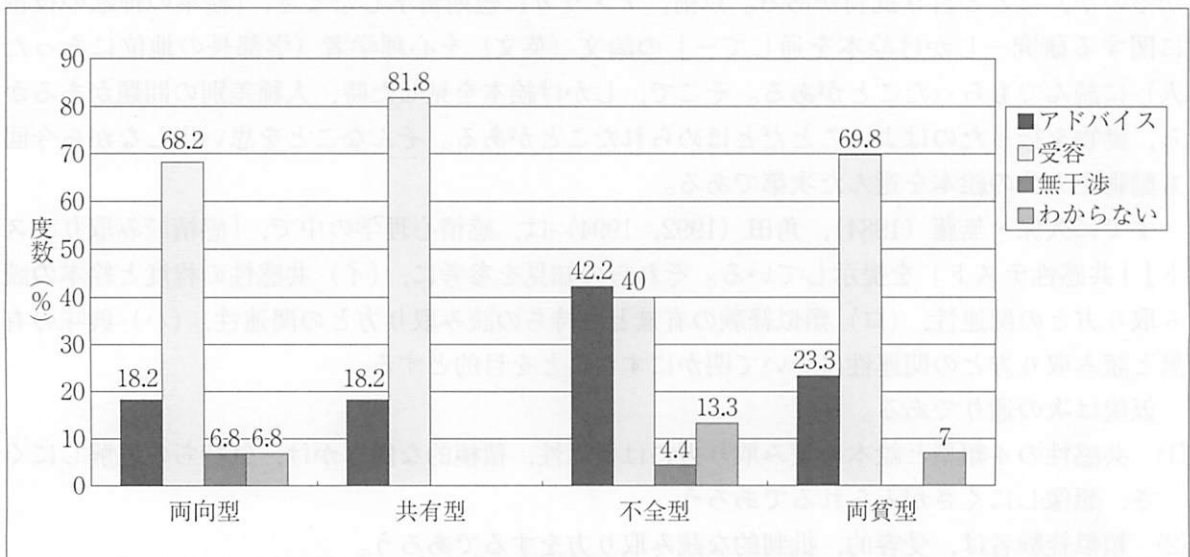


Fig. 1 共感性4類型でみたコブタに対する働きかけの仕方

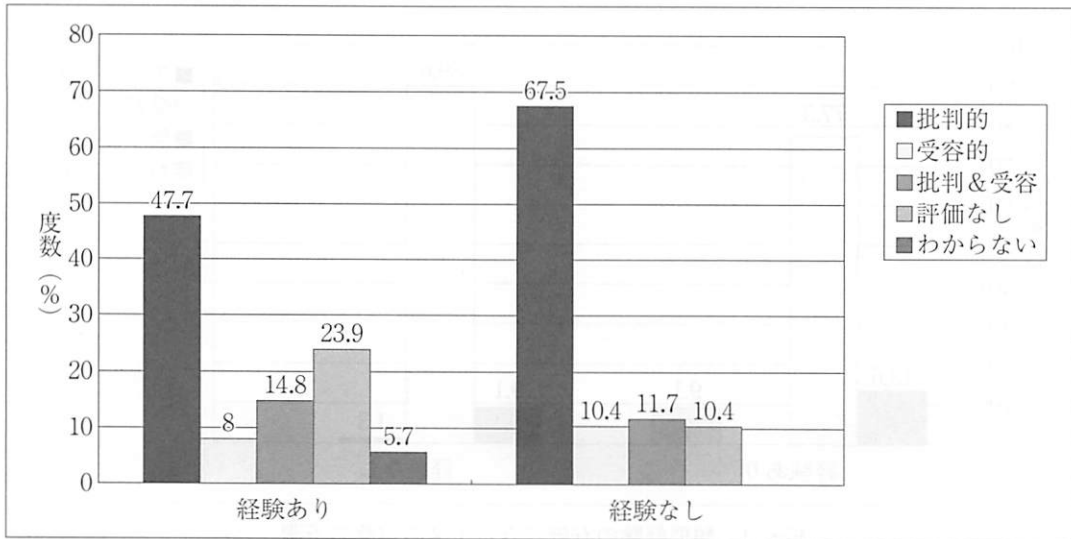


Fig. 2 類似経験の有無でみたコブタ両親の予測

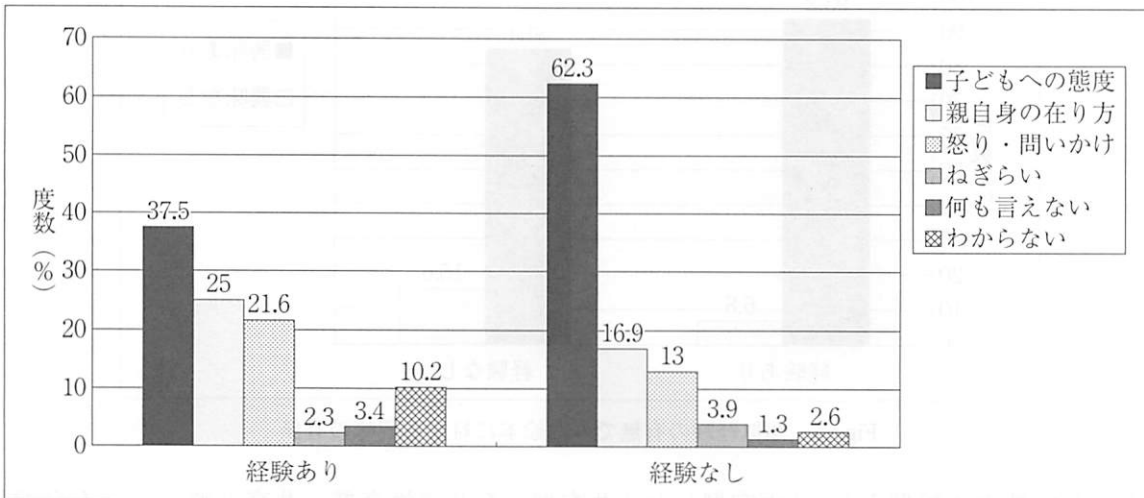


Fig. 3 類似経験の有無でみたコブタの両親に対する印象（見方）

Fig. 2 から、「コブタの両親はどんな両親だと思いますか。」に対する回答の仕方に 5%水準で有意差 ($\chi^2=12.01$) がみられる。

Fig. 3 に類似経験の有無でみた「コブタの両親に対する印象」を示す。

Fig. 3 から、「コブタの両親に何か言いたいことはありますか。」に対する回答の仕方に 5%水準で有意差 ($\chi^2=12.86$) がみられる。

Fig. 4 に類似経験の有無でみた「イヌの言葉の予測」を示す。

Fig. 4 から、「最後の場面に出てくるイヌはコブタに何と言っていると思いますか。」に対する回答の仕方に 5%水準で有意差 ($\chi^2=9.63$) がみられる。

Fig. 5 に類似経験の有無でみた絵本に対する興味の有無を示す。

Fig. 5 から、「あなたはこの絵本に興味がありますか。」に対する回答に傾向差 ($\chi^2=3.25$, $p=.072$) がみられる。

以上から、コブタの気持ちの読み取り方に違いは見られないが、周囲の者の受け止め方には違いが見られることがわかる。

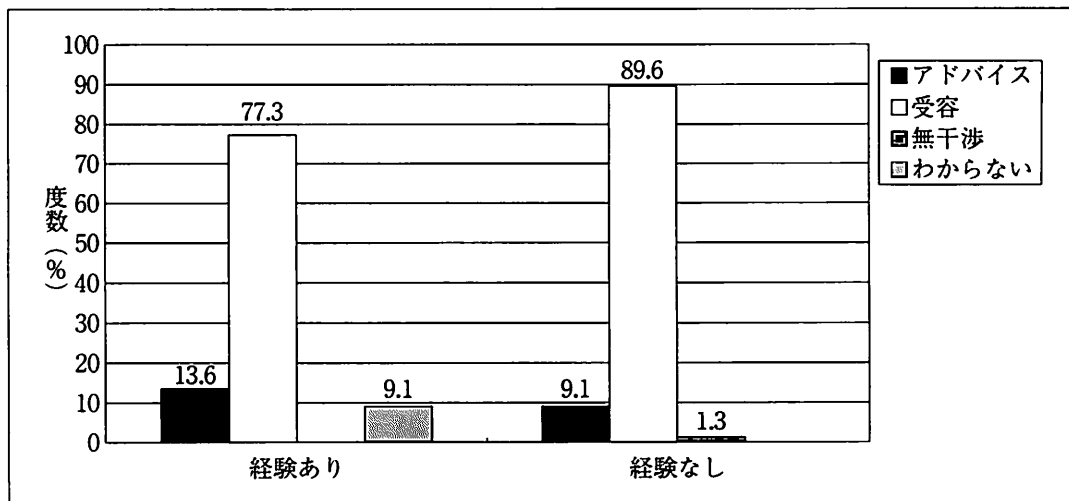


Fig. 4 類似経験の有無でみたイヌの言葉の予測

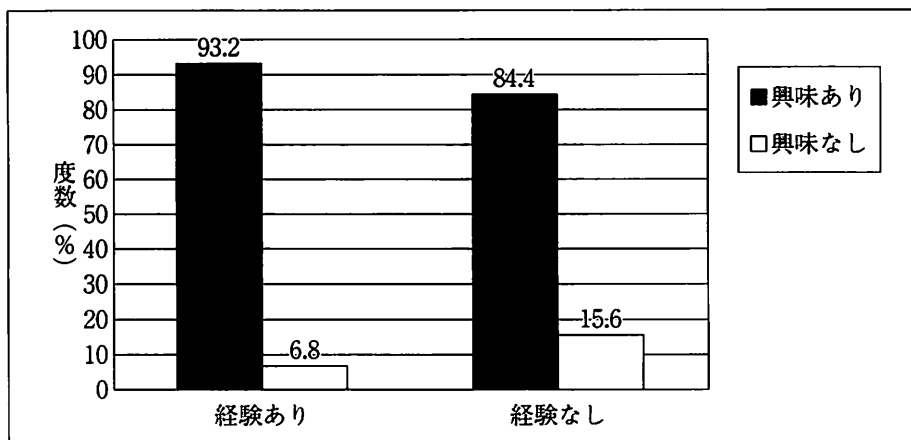


Fig. 5 類似経験の有無でみた絵本に対する興味の有無

次に共感性の4類型より、「両向型」と「共有型」を共感性高群（共高と略す）、「不全型」と「両貧型」を共感性低群（共低と略す）とし、類似経験の有無（経有、経無と略す）と合わせて分類すると、「共高・経無」<「共高・経有」=「共低・経無」<「共低・経有」の順に高くなっている。

Fig. 6 に共感性4類型×類似経験の有無の4群でみた「コブタ両親の予測」を示す。

Fig. 6 から、「コブタの両親はどんな両親だと思いますか。」に対する回答の仕方に5%水準で有意差 ($\chi^2=22.21$) がみられる。

Fig. 7 に共感性4類型×類似経験の有無の4群でみた「イヌの言葉の予測」を示す。

Fig. 7 から、「最後の場面に出てくるイヌはコブタに何と言っていると思いますか。」に対する回答の仕方に傾向差 ($\chi^2=16.31$) がみられる。

Fig. 8 に共感性4類型×類似経験の有無の4群でみた絵本に対する興味の有無を示す。

Fig. 8 から、「あなたはこの絵本に興味がありますか。」に対する回答に5%水準で有意差 ($\chi^2=8.12$) がみられる。

以上から、コブタの気持ちの読み取り方に違いは見られないが、周囲の者の受け止め方には違いが見られる。

Fig. 9 に興味の有無でみた「コブタへの働きかけの仕方」を示す。

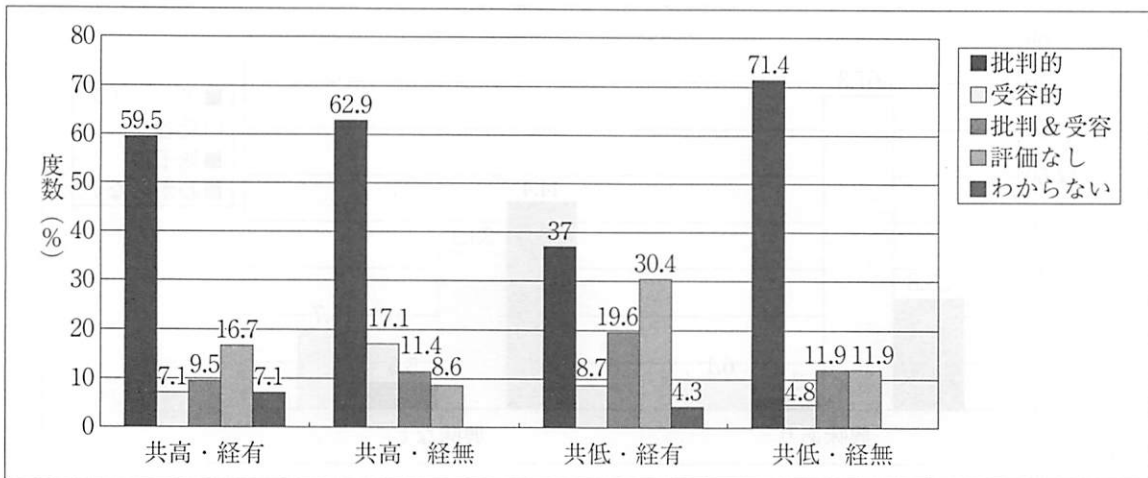


Fig. 6 共感性4類型×類似経験の有無の4群でみたコブタ両親の予測

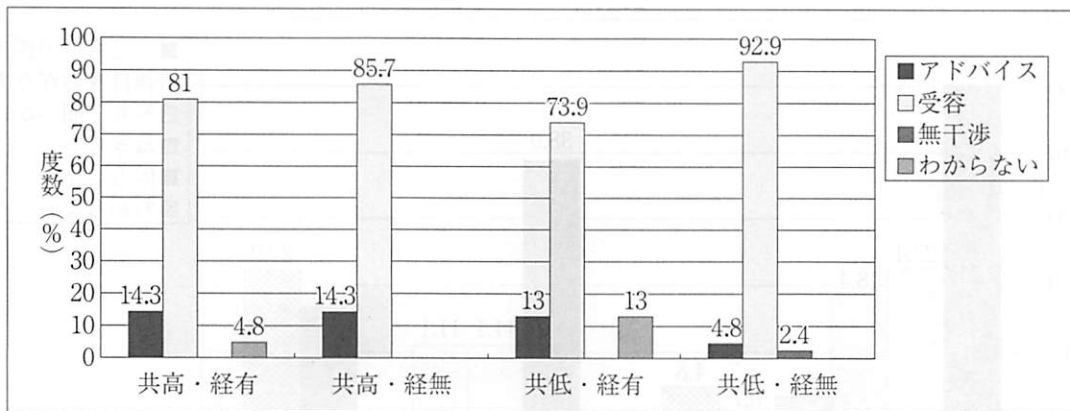


Fig. 7 共感性4類型×類似経験の有無の4群でみたイヌの言葉の予測

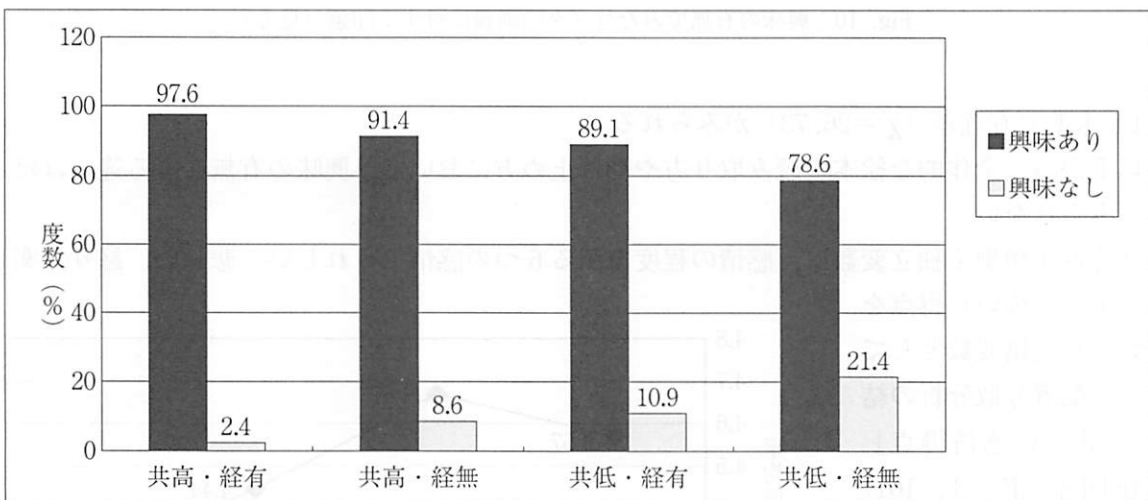


Fig. 8 共感性4類型×類似経験の有無の4群でみた絵本に対する興味の有無

Fig. 9 から、「もし、コブタと話ができるとしたら何と言いますか。」に対する回答に5%水準で有意差 ($\chi^2=8.41$) がみられる。

Fig. 10 に興味の有無でみた「コブタの両親に対する印象」を示す。

Fig. 10 から、「コブタの両親に何か言いたいことはありますか。」に対する回答の仕方に

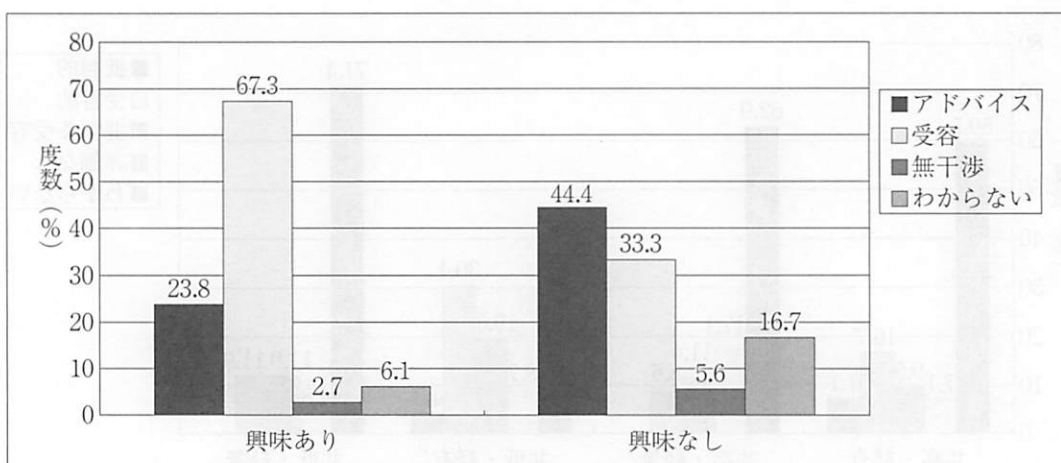


Fig. 9 興味の有無でみたコブタへの働きかけの仕方

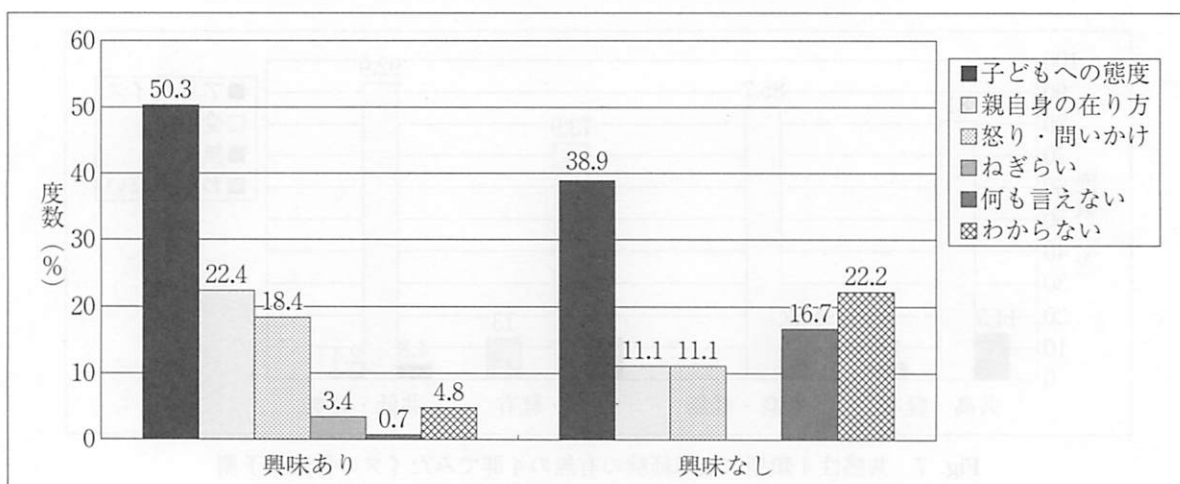


Fig. 10 興味の有無でみたコブタの両親に対する印象 (見方)

0.1%水準で有意差 ($\chi^2=26.73$) がみられる。

以上から、全体的な絵本の読み取り方や受け止め方において、興味の有無による違いはほとんどみられない。

共感性4類型を独立変数に、感情の程度を測る6つの感情(うれしい, 悲しい, 怒り, 楽しい, 不快, 怖い) 得点をそれぞれ従属変数としての一元配置分散分析の結果, 「悲しい感情得点」に傾向差 $|F(3, 161) = 2.22, p = .09|$ がみられる。

Fig. 11 に「悲しい感情得点における共感性4類型の平均値」を示す。

Fig. 11 と Tukey 法によ

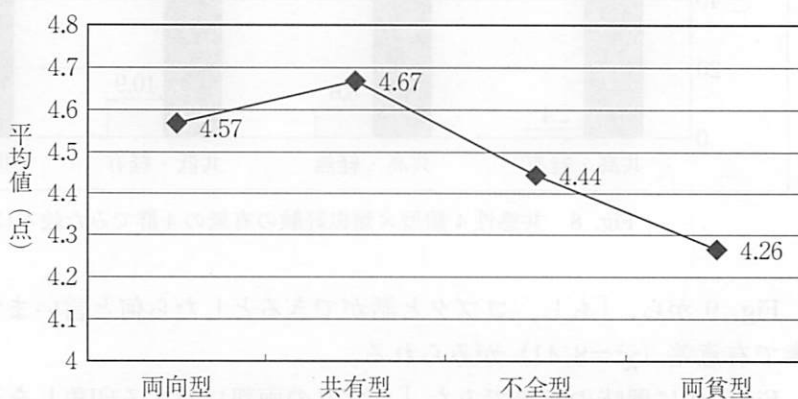


Fig. 11 悲しい感情得点における共感性4類型の平均値

る多重比較検定結果からもわかる通り、「共有型」の方が「両貧型」に比べ、悲しい感情得点が高い傾向にある。

類似経験の有無を独立変数に、感情の程度を測る6つの感情得点をそれぞれ従属変数としての一元配置分散分析の結果、「怖い感情得点」に傾向差 $\{F(1, 163)=3.61, p=.06\}$ がみられる。「怒りの感情得点」「不快な感情得点」において、等分散性の検定結果後、有意差がみられたので、t検定をした結果、「不快な感情得点」に0.1%水準で有意差 $(t=3.74, df=161.03)$ 、「怒りの感情得点」に傾向差 $(t=-1.87, df=162.85, p=.06)$ がみられる。

Fig. 12 に「怖い感情得点における類似経験の有無の平均値」、Fig. 13 に「不快な感情得点における類似経験の有無の平均値」、Fig. 14 に「怒りの感情得点における類似経験の有無の平均値」を示す。

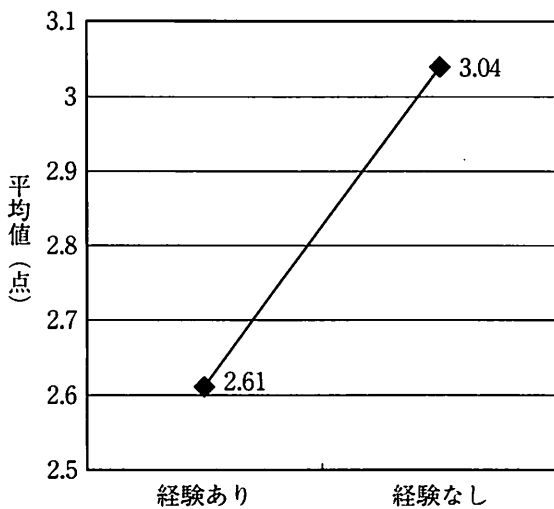


Fig. 12 怖い感情得点における類似経験の有無の平均値

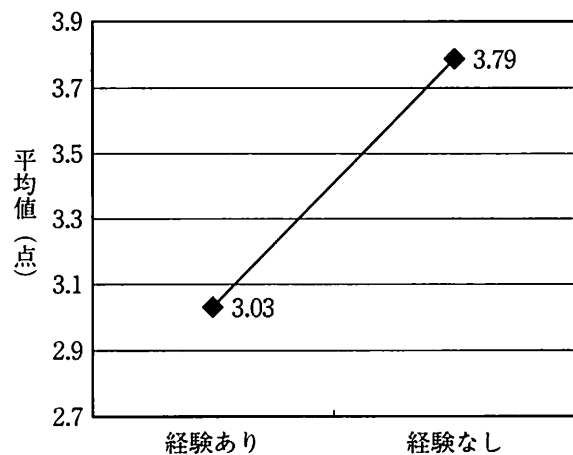


Fig. 13 不快な感情得点における類似経験の有無の平均値

Fig. 12, 13, 14 から、「類似経験無し」の方が「類似経験有り」に比べ、怖い、不快、怒りの感情をあらわしていることがわかる。

共・経4群を独立変数に、感情の程度を測る6つの感情得点をそれぞれ従属変数としての一元配置分散分析の結果、「不快な感情得点」に1%水準で有意差 $\{F(3, 161)=4.59\}$ がみられる。Tukey法による多重比較検定の結果、「共高・経無」と「共高・経有」、「共高・経無」と「共低・経有」との間に有意差がみられる。傾向差がみられたのは、「悲しい感情得点」 $\{F(3, 161)=2.18, p=.09\}$ 、「怒りの感情得点」 $\{F(3, 161)=2.62, p=.05\}$ 、「怖い感情得点」 $F(3, 161)=2.58, p=.06\}$ である。Tukey法による多重比較検定の結果、傾向差がみられたのは、悲しい感情得点では、「共高・経無」と「共低・経有」間、怒りの感情得点では、「共低・経有」と

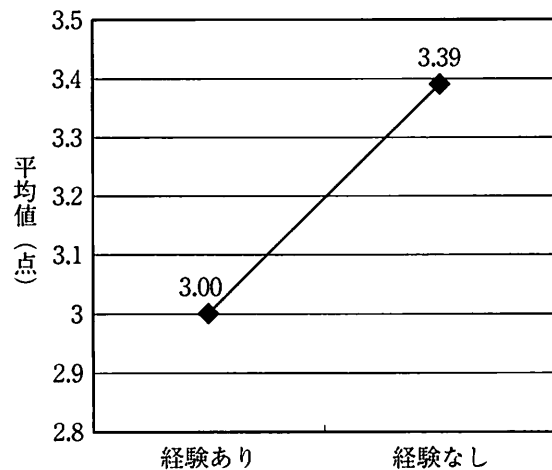


Fig. 14 怒りの感情得点における類似経験の有無の平均値

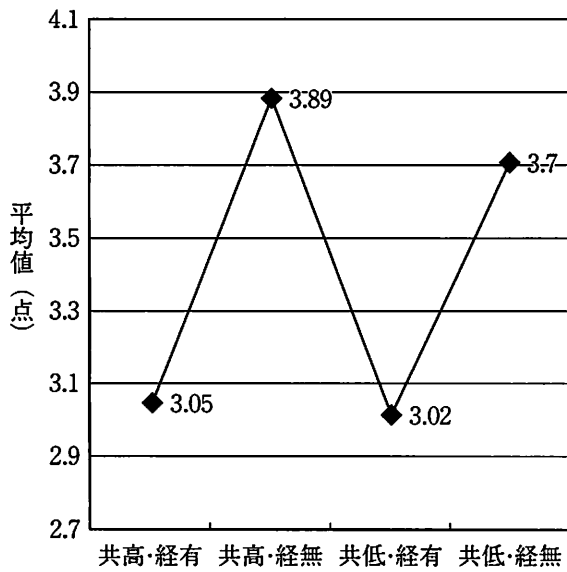


Fig. 15 不快な感情得点における共・経4群の平均値

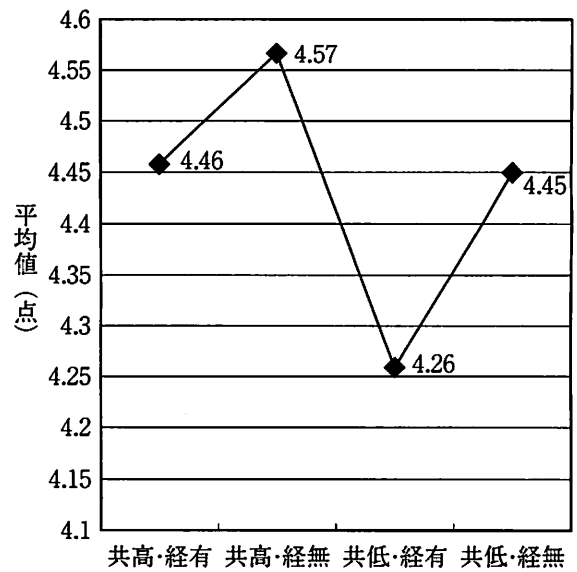


Fig. 16 悲しい感情得点における共・経4群の平均値

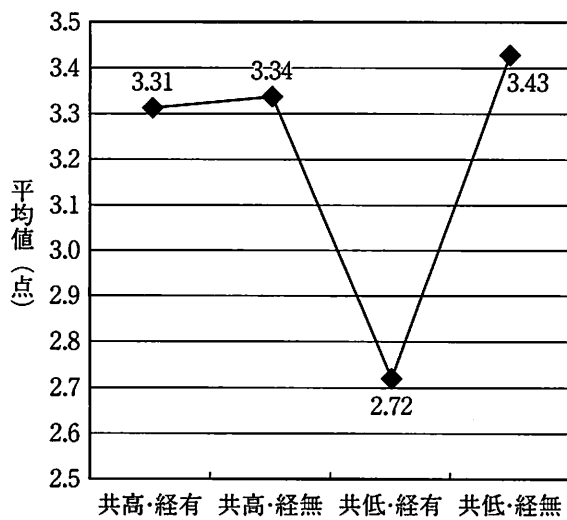


Fig. 17 怒りの感情得点における共・経4群の平均値

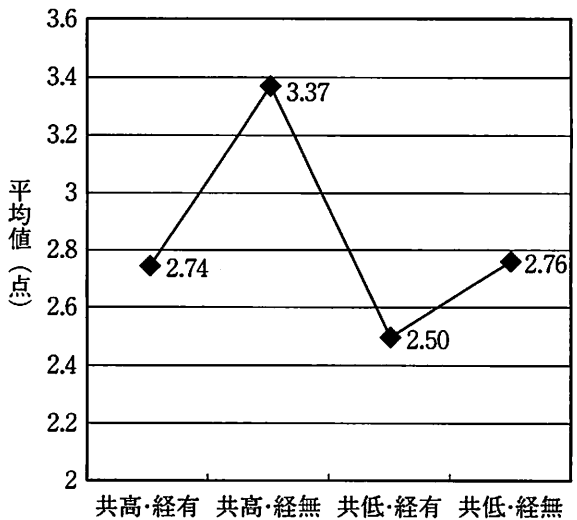


Fig. 18 怖い感情得点における共・経4群の平均値

「共低・経無」間，怖い感情得点では，「共高・経無」と「共低・経有」間である。

Fig. 15 に「不快な感情得点における共・経4群の平均値」，Fig. 16 に「悲しい感情得点における共・経4群の平均値」，Fig. 17 に「怒りの感情得点における共・経4群の平均値」，Fig. 18 に「怖い感情得点における共・経4群の平均値」を示す。

Fig. 15, 16, 17, 18 から，不快な，悲しい，怖い感情得点においては，「共高・経無」の方が，怒りの感情得点においては，「共低・経無」の方が高い。

興味の有無を独立変数に，感情の程度を測る6つの感情得点をそれぞれ従属変数としての一元配置分散分析結果，悲しい感情得点に等分散性の検定により有意差があり，t検定の結果，1%水準で有意差 ($t=3.41$, $df=17.53$) がみられる。

Fig. 19 に「悲しい感情得点における興味の有無の平均値」を示す。

Fig. 19 から，「興味あり」の方が「興味なし」に比べ，悲しい感情得点が高い。

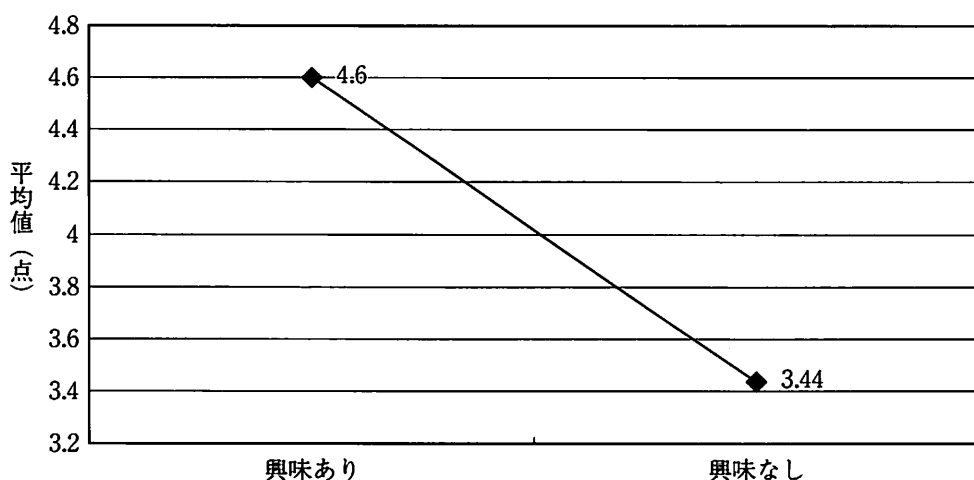


Fig. 19 悲しい感情得点における興味の有無の平均値

共感性4類型を独立変数に、気持ちの読み取り得点項目（感情予測得点，行動予測得点，働きかけ得点，読み取り得点）をそれぞれ従属変数としての一元配置分散分析結果，「働きかけ得点」に1%水準で $\{F(3, 161)=5.58\}$ ，「読み取り得点」に5%水準で $\{F(3, 161)=3.75\}$ 有意差がみられる。Tukey法による多重比較検定の結果，「コブタへの働きかけ得点」において，「不全型」と「両向型」，「共有型」，「両貧型」間，「読み取り得点」においては，「共有型」と「不全型」間に有意差がみられる。

Fig. 20に「コブタの働きかけ得点における共感性4類型の平均値」，Fig. 21に「読み取り得点における共感性4類型の平均値」を示す。

Fig. 20, 21から，コブタへの働きかけ得点において「不全型」が低く，読み取り得点においては「共有型」が高い。

共・経4群を独立変数に，気持ちの読み取り得点項目をそれぞれ従属変数としての一元配置分散分析結果，「働きかけ得点」において傾向差 $\{F(3, 161)=2.44, p=.07\}$ がみられる。Tukey法による多重比較検定の結果，「共高・経無」と「共低・経無」間に傾向差がみられる。

Fig. 22に「コブタへの働きかけ得

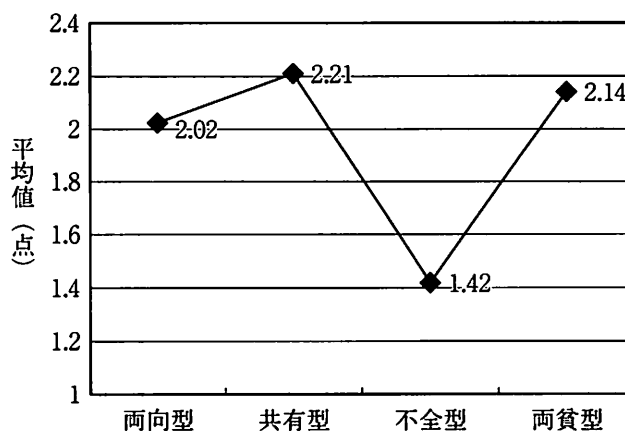


Fig. 20 コブタの働きかけ得点における共感性4類型の平均値

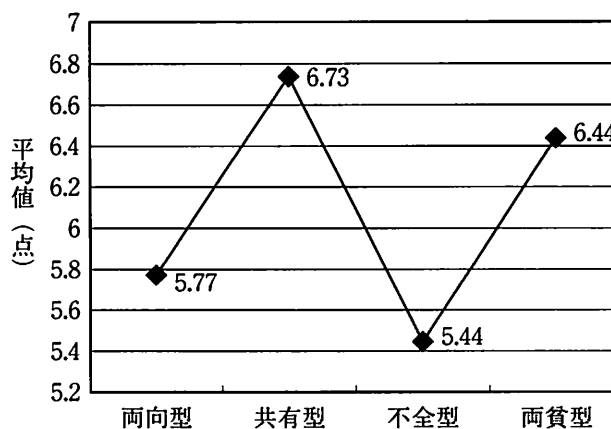


Fig. 21 読みとり得点における共感性4類型の平均値

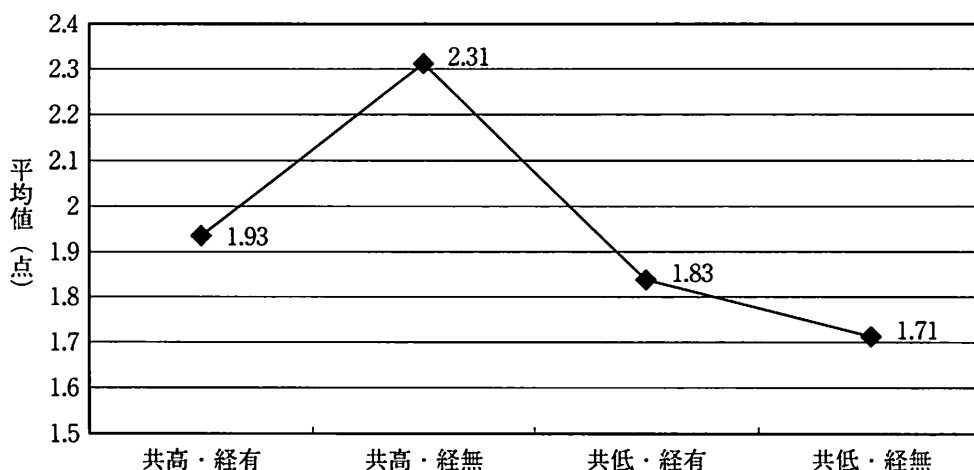


Fig. 22 コブタへの働きかけ得点における共・経4群の平均値

点における共・経4群の平均値」を示す。

Fig. 22 から、コブタへの働きかけ得点において、「共高・経無」が高い。

興味の有無を独立変数に、気持ちの読み取り得点項目をそれぞれ従属変数としての一元配置分散分析結果、「行動予測得点」、「働きかけ得点」、「読み取り得点」において等分散性の検定で有意差がみられたので、t 検定の結果、1%水準で「行動予測得点」(t=3.29, df=20.72)、「働きかけ得点」(t=2.87, df=21.31)、0.1%水準で「読み取り得点」(t=4.78, df=23.66)に有意差がみられる。

Fig. 23 に「コブタの行動予測得点における興味の有無の平均値」、Fig. 24 に「コブタへの働きかけ得点における興味の有無の平均値」、Fig. 25 に「読み取り得点における興味の有無の平均値」を示す。

Fig. 23, 24, 25 から、「行動予測得点」「働きかけ得点」「読み取り得点」において、「興味あり」の方が高い。

「共感性4類型」、「類似経験の有無」、「共・経4群」のそれぞれを独立変数に、「興味得点」

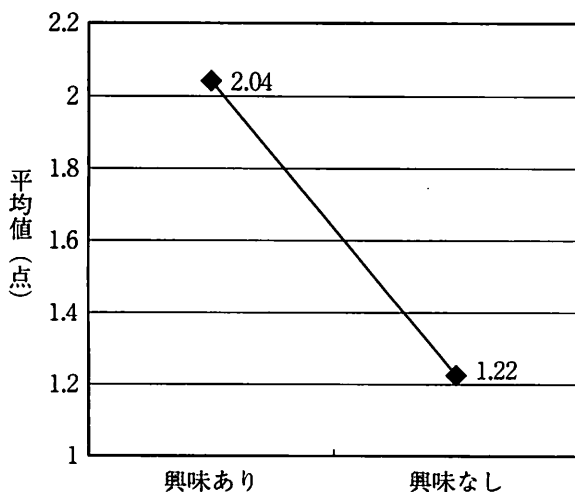


Fig. 23 コブタの行動予測得点における興味の有無の平均値

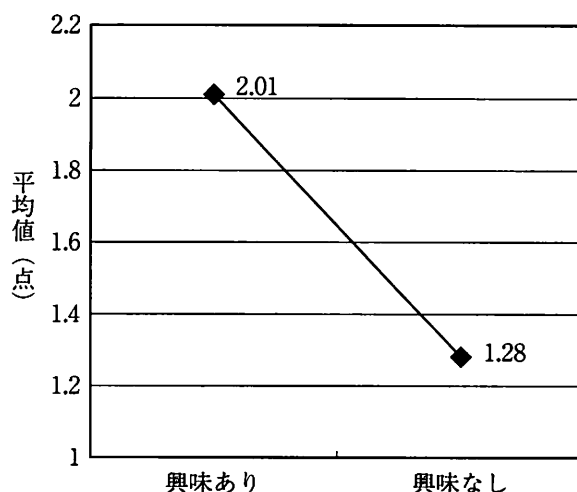


Fig. 24 コブタへの働きかけ得点における興味の有無の平均値

を従属変数としての一元配置分散分析結果、共・経4群において、5%水準で有意差 $\{F(3, 161)=2.78\}$ がみられる。類似経験の有無において、等分散性の検定結果、有意差がみられたのでt検定の結果、傾向差 ($t=1.77, df=132.98, p=.08$) がみられる。

Fig. 26 に「絵本に対する興味得点における共・経4群の平均値」、Fig. 27 に「絵本に対する興味における類似経験の有無の平均値」を示す。

Fig. 26, 27 から、絵本に対する興味が高いのは、「共高・経有」と「経有なし」である。

以上から、仮説(1)の「両貧型」においては、架空の世界(絵本の世界)の他者理解、とコブタの気持ちの想像し易さの2点から、自他の感情認識の乏しさが見られない点を除いて、仮説(1)は支持された。仮説(2)は、コブタの状態や気持ちが比較的想像し易いことと、客観的に捉えられることの2点から、逆の結果となり、支持されない。仮説(3)は支持された。

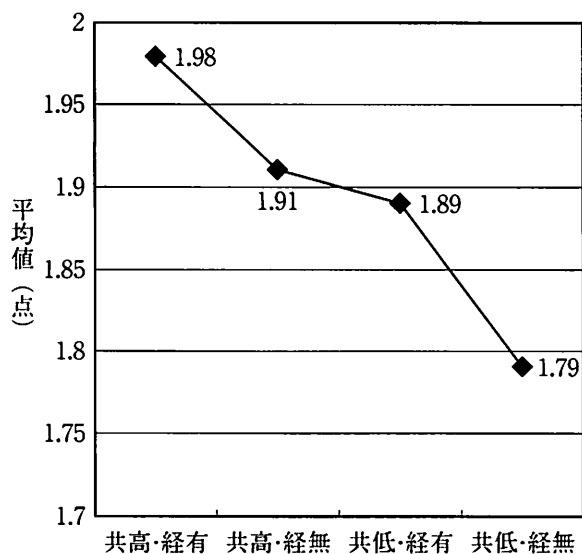


Fig. 26 絵本に対する興味得点における共・経4群の平均値

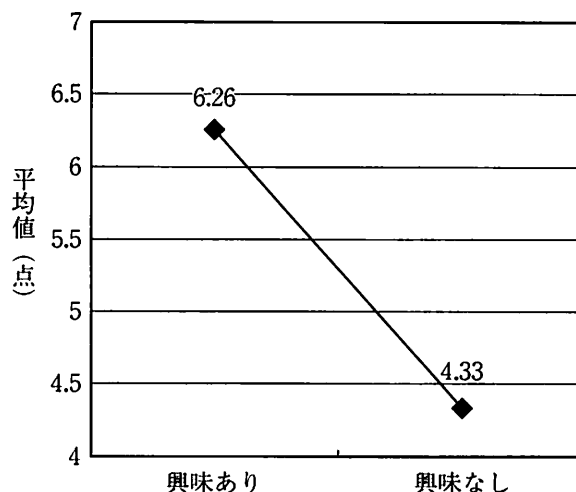


Fig. 25 読みとり得点における興味の有無の平均値

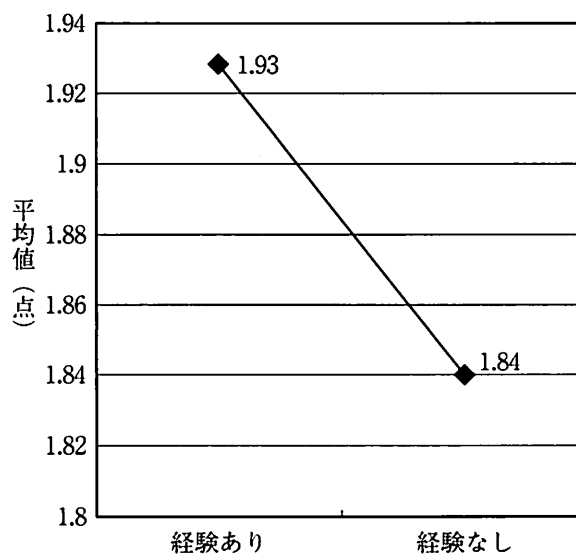


Fig. 27 絵本に対する興味における類似経験の有無の平均値

(結 論)

- (1) 自らの働きかけの仕方(関与の仕方)と共感性の特徴には、関連性が見出せる。
- (2) 類似経験者は、批判的、客観的な捉え方をし、類似経験の無い者は、悲観的に捉え、特に周囲の者(両親)に対して批判的な見方をする。
- (3) 興味の程度が高いほど読み取りも深い。

(引用文献)

- 角田 豊 1992 共感経験尺度の妥当性 -VTR を刺激とした感情内容別検討- 教育心理学研究 第40巻
第2号 178-184
- 角田 豊 1994 共感経験尺度改訂版 (ESSR) の作成と共感性の類型化の試み 教育心理学研究 第42巻
第2号 193-200
- 久保ゆかり・無藤 隆 1984 気持ちの理解における類似経験の想起の効果 -共感的理解の発展的検討-
教育心理学研究 第32巻 第4号 296-305
- 前島康男 1999 おとなのための絵本の世界 -子どもとの出会いを求めて- 創風社
- 佐藤公代 1984 幼児の思考の発達に関する研究 -幼児の物語理解に及ぼす視点の役割- 愛媛大学教育学
部紀要 第1部 教育科学 第30巻 79-86

(注)

項目作成, データ処理にかかりました高橋仁美氏, 被験者の皆様, 文献を教えて下さった橋本巖先生には, 大変お世話になりました。心より感謝致します。